

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成26年1月30日 (2014.1.30)

【公開番号】特開2011-225521 (P2011-225521A)

【公開日】平成23年11月10日 (2011.11.10)

【年通号数】公開・登録公報2011-045

【出願番号】特願2011-9456 (P2011-9456)

【国際特許分類】

A 0 1 N 25/08 (2006.01)

B 0 1 J 35/10 (2006.01)

B 0 1 J 35/02 (2006.01)

C 0 1 B 31/10 (2006.01)

B 0 1 J 23/745 (2006.01)

B 0 1 J 20/26 (2006.01)

C 0 2 F 1/28 (2006.01)

C 0 2 F 1/30 (2006.01)

C 0 2 F 1/32 (2006.01)

C 0 2 F 1/72 (2006.01)

A 6 1 Q 15/00 (2006.01)

A 6 1 K 8/19 (2006.01)

A 6 1 K 8/29 (2006.01)

A 6 1 K 8/97 (2006.01)

A 0 1 N 59/16 (2006.01)

A 0 1 P 3/00 (2006.01)

【 F I 】

A 0 1 N 25/08

B 0 1 J 35/10

B 0 1 J 35/02 J

C 0 1 B 31/10

B 0 1 J 23/74 3 0 1 M

B 0 1 J 20/26 E

C 0 2 F 1/28 B

C 0 2 F 1/28 C

C 0 2 F 1/28 J

C 0 2 F 1/30

C 0 2 F 1/32

C 0 2 F 1/72 1 0 1

A 6 1 Q 15/00

A 6 1 K 8/19

A 6 1 K 8/29

A 6 1 K 8/97

A 0 1 N 59/16 A

A 0 1 P 3/00

【手続補正書】

【提出日】平成25年12月5日 (2013.12.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更**【補正の内容】****【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

(A) 多孔質炭素材料、及び、

(B) 該多孔質炭素材料に付着した銀部材、

から成り、

窒素 B E T 法による比表面積の値が $10 \text{ m}^2 / \text{グラム}$ 以上、B J H 法及び M P 法による細孔の容積が $0.1 \text{ cm}^3 / \text{グラム}$ 以上である殺菌剤。

【請求項 2】

銀部材は、銀イオンを含むイオン、銀、銀合金若しくは銀イオンを含む粒子、又は、銀、銀合金若しくは銀イオンを含む薄膜から成る請求項 1 に記載の殺菌剤。

【請求項 3】

(A) 多孔質炭素材料、及び、

(B) 該多孔質炭素材料に付着した光触媒材料、

から成り、

窒素 B E T 法による比表面積の値が $10 \text{ m}^2 / \text{グラム}$ 以上、B J H 法及び M P 法による細孔の容積が $0.1 \text{ cm}^3 / \text{グラム}$ 以上であり、

光触媒材料は、カチオンあるいはアニオンがドーピングされた酸化チタンから成る光触媒複合材料。

【請求項 4】

光触媒材料は、波長 200 nm 乃至 600 nm の光のエネルギーを吸収する請求項 3 に記載の光触媒複合材料。

【請求項 5】

(A) 多孔質炭素材料、及び、

(B) 該多孔質炭素材料に付着した有機材料、

から成り、

窒素 B E T 法による比表面積の値が $10 \text{ m}^2 / \text{グラム}$ 以上、B J H 法及び M P 法による細孔の容積が $0.1 \text{ cm}^3 / \text{グラム}$ 以上であり、

有機材料は金属を吸着する吸着剤。

【請求項 6】

有機材料は、フェノール基、カルボキシル基、アミノ基、チオール基、ケトン基、リン酸基、アルキル基、エーテル基及びチオニル基から成る群から選択された少なくとも 1 種類の基を有する有機材料である請求項 5 に記載の吸着剤。

【請求項 7】

金属は、クロム、水銀、ヒ素、鉛、カドミウム、スズ、銅、亜鉛、リチウム、ベリリウム、ホウ素、チタン、バナジウム、マンガン、コバルト、ニッケル、ガリウム、ゲルマニウム、セレン、ルビジウム、ストロンチウム、ジルコニウム、ニオブ、モリブデン、パラジウム、インジウム、アンチモン、テルル、セシウム、バリウム、ハフニウム、タンタル、タングステン、レニウム、白金、タリウム、ビスマス、スカンジウム、イットリウム、ランタン、セリウム、プラセオジウム、ネオジム、プロメチウム、サマリウム、ユーロピウム、ガドリニウム、テルビウム、ジスプロシウム、ホルミウム、エルビウム、ツリウム、イッテルビウム、又は、ルテチウムである請求項 5 又は請求項 6 に記載の吸着剤。

【請求項 8】

(A) 多孔質炭素材料、及び、

(B) 該多孔質炭素材料に付着した有機材料、

から成り、

窒素 B E T 法による比表面積の値が $10 \text{ m}^2 / \text{グラム}$ 以上、B J H 法及び M P 法による細孔の容積が $0.1 \text{ cm}^3 / \text{グラム}$ 以上であり、

有機材料は金属を吸着する浄化剤。

【請求項 9】

有機材料は、フェノール基、カルボキシル基、アミノ基、チオール基、ケトン基及びリン酸基から成る群から選択された少なくとも 1 種類の基を有する有機材料である請求項 8 に記載の浄化剤。

【請求項 10】

金属は、クロム、水銀、ヒ素、鉛、カドミウム、スズ、銅、亜鉛、リチウム、ベリリウム、ホウ素、チタン、バナジウム、マンガン、コバルト、ニッケル、ガリウム、ゲルマニウム、セレン、ルビジウム、ストロンチウム、ジルコニウム、ニオブ、モリブデン、パラジウム、インジウム、アンチモン、テルル、セシウム、バリウム、ハフニウム、タンタル、タングステン、レニウム、白金、タリウム、ビスマス、スカンジウム、イットリウム、ランタン、セリウム、プラセオジウム、ネオジム、プロメチウム、サマリウム、ユーロピウム、ガドリニウム、テルビウム、ジスプロシウム、ホルミウム、エルビウム、ツリウム、イッテルビウム、又は、ルテチウムである請求項 8 又は請求項 9 に記載の浄化剤。